

(様式1) 小学校の指導改善プラン (学校用) お茶の水小学校

達成度調査等及び児童の学習状況から見た成果と課題 ○成果 ▲課題			
	第4学年	第5学年	第6学年
国語	○思考・判断・表現は全国平均相当である。 ▲全体的にD層の割合が高い。特に、書くことに関する力が低い。記述力に課題が見られる。	○話すこと・聞くことの領域は区平均相当である。 ▲書くこと、読むことの領域が区平均を5%下回っている。	○知識・技能は区平均相当である。 ▲思考・判断・表現は区の平均より5%下回っている。
社会	○わたしたちの暮らしと働く人々の分野は、区平均相当である。 ▲知識・技能、思考・判断・表現の両方とも区平均を3%下回っている。	○知識・技能における問題は区平均相当である。 ▲思考・判断・表現を問う記述式の問題で区平均を4%下回っている。	○思考・判断・表現は区平均相当である。 ▲知識・技能はどの領域も3%区の平均を下回っている。
算数	○思考・判断・表現を伴う問題が全国平均、区平均を上回っている。 ▲式で表したり、計算したりする基礎的な領域が平均を下回っている。	○数と計算、図形は区平均相当、データの活用は平均を4%上回っている。 ▲思考・判断・表現を問う問題、変化と関係の領域が平均を下回っている。	○思考・判断・表現を問う記述式や応用的な問題は区平均相当である。 ▲基礎的な問題は区平均を5%ほど下回っている。
理科	○知識・技能、思考・判断・表現の両方とも区平均を上回っている ▲二極化の傾向が見られるので、D層に対する個別の手立てが必要である。	○知識・技能、思考・判断・表現の両方とも区平均を上回っている。 ▲C層、D層が53.5%を占めているため、底上げを図りたい。	○記述式の問題で区・全国双方の平均を5%上回っている。 ▲短答式の問題で区の平均をわずかに下回っている。
授業改善の方針			
国語	・「書くこと」や「読むこと」の領域における記述式に課題が見られる。物語や説明文の読み取りでは、文章理解を深めるために音読をしたり、じっくりと教材を味わったり時間を設定する。また、感じたことや考えたこと、自分の意見や考えなどを文で表し、表現することへの抵抗感を減らし、書く力を高める。		
社会	・第3学年「千代田区の位置」、第4学年「水はどこから」、第5学年全般では、資料の読み取りや記述式の設問が課題であった。より多くの資料にふれさせたり資料をもとに考えを表現したりする活動を多く取り入れる。ICTを活用するなど資料の効果的な与え方や精選も図る。		
算数	・思考・判断・表現に課題が見られる。児童同士が数学的な見方・考え方を広げられるように問題解決の時間を設ける。自分の考えを図や式、言葉などでノートにまとめて相手に伝え、友達の考えを聞いて共通点や相違点を見付けて思考力を伸ばす。基礎基本が下回っているので、復習や計算問題を取り入れる。		
理科	・観察、実験で得られた結果等を適切に表現するため、語句や用語の正確な使い方について指導する。同時に実験結果の照らし合わせや授業のまとめ、振り返りを確実にを行い、知識・技能の定着を図る。 ・ICT機器を活用し、児童同士の思考の過程や実験結果を可視化させ、自他の考えをより深める学習を行う。		
音楽	・主体的に音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを味わいながら意欲的に活動することができているが、音楽の要素や構造が生み出すよさや面白さを音楽的な根拠をもとにして言語化することに課題がある。思考ツールなどで整理しながら考えを深め、学んだことを表現に生かす学習過程の工夫をする。		
図工	・主体的に表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組むことができおり、自己決定しながら表現する力が身に付いている。既習事項や他教科との関連を意識しながら発想を広げる手立てや技能の応用を学習内容に取り入れる。 ・振り返りと鑑賞活動を毎題材ごとに取り入れ、互いのよさや違いを認め合う機会を増やし、さらに自己の発想や表現を深める手立てとする。		
家庭	・自分の家庭生活を様々な視点で見直すことを大切にし、具体的な課題意識をもって学習に取り組むことができるようにする。実践的・体験的な活動を充実させることで、知識・技能の確実な定着を図り、実生活で活用できるものへと高め、家庭実践への意欲につなげる。		
体育	・体力・運動能力調査の結果より、多くの学年で「50m走」と「ボール投げ」において全国の平均値より下回っている結果が見られた。そのため、「走り方教室」「投げ方教室」の実施や効果的な教具を活用すること等を通して、学校全体の走力と投力の向上を目指す。		
外国語	・英検ESGのスコアレポートの結果、昨年度の点数より「聞くこと」が上がり、「読むこと」が下がった。イラストに関わる内容の聞き取り、スペリングを読んで意味を理解する問題が弱い傾向がある。分からない言葉に出会っても前後関係から推測して聞くこと、聞き慣れてきた単語や表現を段階的に読む活動を学習の中で取り入れていく。		